

学科 学年	M1 E1 S1	科目 分類	地球環境学概論 Introduction to Earth Environmental Science	講義 必修	18前期 または 後期 1履修 単位	学習教育 目標 A, D	担当	大久保清美 OHKUBO, Kiyomi
概要	<p>地球環境問題は21世紀における最大課題と言ってよいだろう。現代科学技術はこの課題と密接不可分の関係にある。言うまでもなく、先進諸国の近代化は科学技術に拠るところが極めて大きかった。しかし、科学技術の発展を無批判に容認できない事態も次々と発生してきた。種々の公害や温暖化などのいわゆる地球環境問題である。すなわち、科学技術の発展と飽くなき人間の欲求とが結びついて、20世紀後半以降における人間の活動量の飛躍的増大が、地球環境の許容限界を超え始めるに至っている。</p> <p>本授業においては現代のこのような状況を踏まえ、様々な環境汚染問題の現象及び原因を認識し、またその問題解決のための方途を探究することによって、次代の科学技術を担う学生諸君の、科学技術者としての、また市民としての環境倫理の涵養に努めたい。合言葉は、"Think globally, act locally"である。なお、授業形態はゼミ形式とし、毎回4名前後の学生に担当テーマについてプレゼンテーションをしてもらい、それを元にクラス全体で議論を進める形式を基本とする。</p>							
科目目標 (到達目標)	学生が、下記の授業計画に示すテーマ毎にその現状及び原因を認識・理解し、解決策を模索することにより、 環境倫理 を身に付けることを目標とする。							
教科書 器材等	<ul style="list-style-type: none"> 環境科学入門(富田豊他、学術図書出版社) 高専共通ビデオ教材:環境科学(メディア教育開発センター)他 							
評価の基準と 方法	プレゼンテーション80%、授業への積極姿勢20%として評価する。60点以上を合格とする。							
関連科目	特になし							
授業計画								
	参観	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)						
第1回	x	ガイダンス(プレゼンテーションのためのテーマ選択・グループ分けを含む)						
第2回		第1章:環境汚染問題とは 第1節:環境汚染の歴史 第2節:環境汚染の分類						
第3回		第2章:地球規模の環境汚染 第1節:地球温暖化						
第4回		第2章:地球規模の環境汚染 第2節:オゾン層破壊 第3節:酸性雨						
第5回		第2章:地球規模の環境汚染 第4節:森林破壊と砂漠化 第5節:生態系の破壊						
第6回		第3章:地域規模の環境汚染 第1節:大気環境(大気汚染)						
第7回		第3章:地域規模の環境汚染 第2節:水環境(水質汚濁)						
第8回		第3章:地域規模の環境汚染 第3節:土壌環境(土壌汚染)						
第9回		中間試験						
第10回		第4章:生活環境における環境汚染 第1節:環境ホルモン 第2節:ダイオキシン						
第11回		第4章:生活環境における環境汚染 第3節:食品 第4節:室内環境						
第12回		第5章:環境汚染問題の改善に向けて 第2節:廃棄物						
第13回		清掃工場等見学						
第14回		第5章:環境汚染問題の改善に向けて 第3節:エネルギー資源						
第15回		第5章:環境汚染問題の改善に向けて 第4節:「持続可能な社会」を目指して						
第16回		まとめに代えて(ドイツの環境政策など)						
第17回		x 期末試験						
オフィス アワー	月曜日15時~16時30分							
授業アンケート への対応	プレゼンテーションに対する質疑応答が不活発なので対策を模索中							
備考	プレゼンテーションの1人当りの持ち時間は約15分とする。発表原稿は各自2部準備し、1部は発表前日までに教員に提出のこと。なお、紙資源節約の観点から、原則としてハンドアウトは配らない。発表に当たって要旨・図表等をOHPで提示したい学生は、教員への原稿提出時にその旨申し出ること。パワーポイントでの発表歓迎。							
更新履歴	060211新規							

